

別記様式第1号（第4条関係）



木津川市子ども・子育て会議 開催結果要旨

会 議 名	第3回木津川市子ども・子育て会議		
日 時	平成26年5月28日 午後2時30分～4時30分	場 所	会議室4-3
出 席 者	委 員	別紙のとおり	
	その他出席者	なし	傍聴人の数 2人
	庶 務	子育て支援課	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 国での検討状況（公定価格について）</p> <p>(2) 圏域（教育・保育提供区域）設定の見直しについて</p> <p>(3) 事業計画の見込み量について</p> <p>(4) 事業計画の骨子・基本理念について</p> <p>3 その他</p> <p>(1) 次回開催日程について</p> <p>(2) その他</p> <p>4 閉会</p>		
会議結果要旨	<p>1 開会</p> <p>事務局より、開会の宣言を行うとともに、人事異動により変更のあった委員（山城南保健所 福祉室長 藤寄委員 → 貴志委員）の報告、会議資料の確認を行った。</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 国での検討状況について 「資料1、別紙①」に基づき事務局より説明</p> <p>(2) 圏域（教育・保育提供区域）の設定の見直しについて 「資料2」に基づき事務局より説明</p> <p>(3) 事業計画の見込みについて 「資料3」に基づき事務局より説明</p>		

	<p>(4) 事業計画の骨子・基本理念について 「資料4、別紙①②」に基づき事務局より説明</p> <p>3 その他 (1) 次回開催日程について 事務局より、次回は7月30日に開催予定であることを連絡した。 (2) その他</p> <p>4 閉会</p>
<p>会議経過要旨</p>	<p>1 開会 山本委員欠席 人事異動による委員変更 京都府山城南保健所福祉室長 藤寄委員 → 貴志委員</p> <p>2 議事 主な意見・質疑等は次のとおり。 (○：質疑・意見 ⇒：質疑に対する返答)</p> <p>(1) 国での検討状況について ○加算部分①と②に分けているのはなぜか。 ⇒国の資料を読み込んでいるが、その部分についての説明は見当たらなかった。 次回の会議で説明する。</p> <p>○加算部分が変更になることはあるのか。 ⇒資料の公定価格の骨格案は、0.7兆円程度の財源を前提として作成されたものだが、量的拡大と質の改善を実現するためには、1兆円超の財源が必要とされている。 また、保育所の努力によって、加算部分を増やすことができる。</p> <p>○電算システムはどのようなシステムか。誰がどの様に使うのか。 ⇒木津川市が使う電算システムである。幼稚園の電算システムは教育委員会で、保育所の電算システムは子育て支援</p>

	<p>課で、それぞれの電算システムを持っている。 この電算システムに認定こども園の電算システムを追加したものを構築していく。</p> <p>○療育支援加算は地域に対する支援と理解してよいか。 ⇒国の市資料には、「障害児受入施設」と明記されているので、施設に対する加算だと理解している。</p> <p>(2) 圏域（教育・保育提供区域）の設定の見直しについて ○見直し案は、現行の小学校区と同じということか。 ⇒現行の小学校区のとおりである。</p> <p>(3) 事業計画の見込みについて ○どこからが木津西部で、どこからが木津東部か。 ⇒近鉄奈良線をイメージして頂きたい。近鉄奈良線の西側が木津西部であり、東側が木津東部である。しかし、相楽台ニュータウンはすべて木津西部である。</p> <p>(4) 事業計画の骨子・基本理念について ○子ども・子育てに関する基本指針に貧困とあるが、それも一つの視点としておく必要があるのではないか。 ⇒書き込んでいく様に考えている。</p> <p>○父子家庭のことも書き込んでいってはどうか。 ⇒書き込んでいくよう考えている。</p> <p>○保育の量的拡大とあるが、H29年度から子どもの数が減るという予想が立てられている。このあたりの兼ね合いは如何か。 ⇒木津川市では、約45パーセントの子どもが幼稚園にも、保育所にも通っていないが、母親の就業率が継続的に増加しており、母親の就業率の増加に伴う保育園児の増加を見越している。新たな開発や子ども・子育て新制度による児童数の増加もある。 45パーセントには、市外の幼稚園・保育所に通う園児を含んでいるので、補足しておく。</p>
--	--

	<p>○ファミリー・サポート・センター事業は、誰が行うのか。 ⇒ファミリー・サポート・センター事業は、木津川市が実施主体となって行う。</p> <p>○重点プロジェクトの重点施策が大切になってくる。具体的で明確な施策を出して頂けると有難い。認定こども園が実際木津川市でどの様になってくると考えているのか。 ⇒次世代育成支援地域行動計画の重点施策について、5年間取り組んできたが、未達成な部分を子ども・子育て支援事業計画に踏襲したい。認定こども園については木津川市でも取り組んでいく方向で考えている。</p> <p>○女性の就労率が上がるとあるが、就労場所はあるのか。 ⇒木津川市の場合、基本的には大阪・京都のベッドタウンという位置づけなので、就労する場所はあると考えている。</p> <p>○年齢層によって就労できる環境が違うと思うがそのあたりはどの様に考えているのか。 ⇒現在データは持ち合わせていない。 次回の会議で説明する。</p> <p>○次世代の時のアンケートと今回のアンケートの違いが分かればと思うが。 ⇒資料を作成する。</p> <p>3 その他 (1) 次回開催日程について 次回は7月30日</p> <p>(2) その他 次回は計画書のほぼ完成形と条例案を提示したい。</p> <p>7 閉会</p>
その他特記事項	

署名欄	木津川市子ども・子育て会議 会長
	安藤 和彦  印
	藤本 和子  印